



じち かいちょうないかい
自治会町内会

ちいき
地域が見えると地域がつながる



ちいき
地域をささえる
自治会町内会の
活動は
2・3ページへ



市長だより

の とはんとうじしん ひがい
能登半島地震で被害をうけた人たちが一日でも
早くふつうの生活にもどれるように、横浜市では、
被害があった場所にのべ1,500名以上の職員をは
けんして、支援をしています。現地でふつうの生活ができるように活動
をする中で、ふだんのくらしでつくられた地域でのささえ合いが、たい
へんな避難生活の大きな力になることをあらためて感じています。
横浜市では、自治会町内会をはじめとする地域のみなさんが、
防災訓練や防犯パトロール、子どもや高齢者の見まもり、まちをきれ
いにする活動、イベント開催などさまざまな活動をして、地域の安全
安心なくらしと絆をまもってくれています。横浜市としても、こうした

じち かいちょうないかい かつどう
自治会町内会の活動をいっそうささえていきます。

子育て支援には、これからも力を入れていきます。去年の8月に
始まった「子どもの医療費の無料化」について、2024年度から、
横浜市だけの出産費用の助成をスタートします。出産と育児のための
一時金50万円のほかに、最大で9万円を出して、安心して赤ちゃんを
産める環境をととのえます。また、小学生の夏休み中に昼食を提供し
たり、さまざまな子育ての手続きをスマホからできるようにします。新
しいとりくみをすすめて、いそがしい子育て世帯がもっと「ゆとり」を持
てるようにしていきます。

よこはましちょう やま なか たけ はる
横浜市長 山中竹春

いざという時に役立つ 地域とのつながり

能登半島地震では、交通や通信などがとだえてしまいました。そんなとき、地域でのささえ合いが大きな力を発揮しました。そういう顔の見える関係は、毎日の暮らしの中で少しずつつられていくものです。そんないつものささえ合いの中心になっているのが自治会町内会のみなさんです。

市の職員も被災地支援の現場で感じた つながりの大切さ

避難所では、被害をうけたみなさんが、水をうけとるときや、洗濯をしたりするときに、ゆずり合ったり、助け合ったりしていました。ふだんからの人間関係ができていたので、たいへんな中でも、おだやかな空気が流れていて、人とのつながりが心のささえになるということがよくわかりました。また、自治会が防災に積極的にとりこんでいたことで、スムーズな避難ができたという話も聞いて、いつもの防災訓練がとても重要だとあらためて感じました。



水道局 石井職員

防災・減災(=災害をふせいだり、小さくしたりすること)にとりくむ自治会町内会の活動

ヨコハマタワーリングスクエア自治会(西区西平沼町)

25階建ての高層マンションの中に625世帯と6事業所があり、自治会の会員数は631です。年2回防災訓練をしています。近くの地域防災拠点と協力して、避難所をつくって避難する人をうけいれる訓練もしています。毎月1回話し合いのために集まります。また、食べもの・飲みもの・簡易トイレパックなど、防災備蓄品を自治会で買ってみんなに配ることで、どんな家族が住んでいるのかを知り、防災の大切さをつたえています。



▲防潮(=津波や高潮をふせぐ)シートの組み立て訓練



▲はしご車の立ち上げ訓練

ふだんの活動についてインタビュー

防災を中心に生まれるつながり

会長 平野周二さん

10年ほど前にまちづくりを学ぶ講座に参加して、地域がいついかなって防災にとりくむことが必要だと強く感じました。近くで、家の建物がたおれてしまった人が優先的に地域防災拠点を使えるように、マンションに住んでいるみなさんには、できる方は在宅避難(=自分の家に避難すること)するようにいつも呼びかけています。備蓄品はポストに入れて配るのではなく、決まった日に取りに来てもらって、みなさんの顔が見える関係づくりにつながるようにしています。

また、災害の後だけでなく、災害が起きたときに生き残るためのそなえも大切です。家具がたおれないようにしておくこと、感震ブレーカー(=地震が起きたときに電気を切るしくみ)を設置することなど、ふだんからできる対策がたくさんあります。地区の代表として、子どもたちに防災の話をする時には、「まわりに大人がいないときは、自分で考えて、自分の判断で避難すること。自分が助かってはじめてまわりを助けられる。自助が互助につながっていく」とつたえています。

私自身も、自助としての防災対策や備蓄をしているほか、防災士などのさまざまな資格を取ったり、講座を受けて、自治会のみなさんといっしょに学びながら、いつも情報をアップデートしています。



▲「防災士証」を持つ平野さん



自分の階まで、はしごが届かないことがわかった

鈴木 二三子さん

はしご車の訓練をしたとき、12階までしか「はしご」が届かないことがわかりました。私の階まで届くと思っていたので、火事を起こさないようにするにはどうしたらよいか、もし火事になってしまったらどうするかを考えるきっかけになりました。消火栓も、場所は知っているけれど、使い方はわかりませんでした。自治会に入り、防災訓練をしたり会長の話を聞いたりして、ふだんからのそなえが大切だと気づきました。

今は、私の家でも3~4日分の食料とカセットコンロを用意するようにしています。

自治会に入って、家族の意識が変わった

井関 元子さん

東日本大震災のとき、私の息子は仙台にいました。そのとき、災害のときに必要なものが家にそろっていないことに気がきました。また、自治会で、防災のために実際どんなそなえや対策が必要なのかを知って、自分の家にあわせた備蓄品もふやしました。自分たちがどこにいるかを知らせるための笛やライトなども用意しています。

防災訓練も、いそがしいとつい欠席してしまいがちですが、時間がたつとせっかく覚えた防災知識を忘れてしまいます。毎年やっておくことで、いざという時に動けるようになると思います。



自治会町内会には、さまざまな活動があります

防災

備蓄倉庫(=災害などのときに必要なものをたくわえておくところ)の管理や防災訓練

防犯

防犯パトロールや防犯灯の設置

見まもり

学校に行く子どもたちや高齢者世帯の見まもり

広報

地域情報の発信、「広報よこはま」などを配る

美化

ごみひろいや、ごみを集める場所の維持・管理

子育て

子育てサロンや子ども会を開く

※活動の内容は自治会町内会によってちがいます。

自治会町内会の活動に気軽に参加してみませんか



ひらの 平野さん

ふだんからの関係づくりのためにも、納涼祭や餅つき大会、新しく1年生になった子どもたちのお祝いをする会など、子どもから大人まで世代にとらわれない横のつながりづくりを積極的に進めています。こうした防災以外の自治会活動にもぜひ参加してもらえとうれしいです。



すずき 鈴木さん

自治会活動をやってみると、たいへんだとは思いません。最初は緊張しましたが、自然にあいさつができるようになり、いろいろな人と知り合いになりました。毎日楽しいですし、ぜひ自治会に入ってみてほしいなと思います。



いげき 井関さん

マンションだと、となりの人でもめったに会わないことがあります。でも自治会に入って行事などに参加して、知り合いがふえました。災害など、なにかあった時にはみんなで協力しなければならぬので、顔を知ってくれている人がいるのは本当にありがたいです。



▲新しく1年生になった子どもたちのお祝いをする会

あなたも自治会町内会に入って、いざという時にそなえませんか



くわしいことは
こちら

きくところ 市民局地域活動推進課 TEL:045-671-2317 FAX:045-664-0734

5月3日(金よう・祝日)～6月2日(日よう)は よこはまかいこうげっかん 横浜開港月間です

臨港パークから山下公園までの海岸ぞいは、世界にじまんでできる美しい景観
です。さまざまな観光施設も集まっています。開港月間のときにはいろいろな
イベントが開かれますから、横浜だけの景色といっしょに楽しんでください。



6月1日(土よう)・2日(日よう) だい かい よこはまかいこうさい 第43回 横浜開港祭

「開港をお祝いして、港に感謝しよう」というテーマのもと、市民みんなが
集まる『市民祭』として始まった横浜開港祭。

ステージイベントや子ども縁日など、子どもから大人までだれでも楽しめる
プログラムをたくさん用意しています。

【会場】臨港パーク ほか



かわいいことは
こちら



きくところ 横浜開港祭実行委員会事務局 TEL:045-212-5511 FAX:045-212-5510

5月3日(金よう・祝日)～6月9日(日よう)

ガーデンネックレス横浜2024 よこはま 横浜ローズウィーク

「花と緑でいっぱいのまち 横浜」のシンボルとして長くしまされてきた横浜の花
“バラ”。見ごろをむかえて美しく咲く“バラ”を、山下公園など市内のあちこちで、横浜の
歴史を感じる町なみや港の風景と一緒に楽しむことができます。

【会場】山下公園、港の見える丘公園、横浜市役所、横浜山手西洋館、横浜イングリッシュ
ガーデン、八景島バラ園ほか横浜市内のいろいろな場所



かわいいことは
こちら



よこはま
横浜の花と緑を
PRするマスコット
キャラクター
「ガーデンベア」
©ITOON/GN



やましたこうえん
山下公園

きくところ NTTハローダイヤル TEL:050-5548-8686 (毎日9:00～20:00 6月10日まで) FAX:045-550-4093

5月11日(土よう)・12日(日よう)

よこはまたいかい 横浜大会 2024ワールドトライアスロン・ パラトライアスロンシリーズ 開催

パリ2024オリンピック・パラリンピック出場に向けて、いろいろな国のトップレベルの選
手が横浜に集まって、熱い戦いをくり広げます。

【会場】山下公園のまわりの特設会場(山下公園スタート・フィニッシュ)



かわいいことは
こちら

きくところ 世界トライアスロンシリーズ横浜大会組織委員会 TEL:045-680-5538 FAX:045-641-2371



©Shugo TAKEMI/Japan Triathlon Media

5月25日(土よう)・26日(日よう)

スポーツとエンタメを楽しむ2日間 YOKOHAMA B-Block Fes

横浜文化体育館がリニューアルし、まちのにぎわいを生み出
す横浜の新しいランドマーク「横浜BUNTAI」として今年4月に
オープンしました。期間中はスポーツ体験・エンタメステージ・マ
ルシェなどを楽しむことができます。

【会場】横浜BUNTAI、大通り公園、関東学院大学(横浜・関内キャンパス)

きくところ にぎわいスポーツ文化局スポーツ振興課 TEL:045-671-3583 FAX:045-664-0669



かわいいことは
こちら

こうほう
広報よこはまPlusでは、
よこはま
横浜BUNTAIの
特徴などに
ついて紹介
しています。



よこはま
横浜BUNTAI

5月は11日(土よう)・16日(木よう)・ 18日(土よう)・25日(土よう)・26日(日よう)

かいこうげっかん 開港月間のときをはじめ、年間を通してやっています！ よこはま 横浜スパークリングトワイライト2024

港の夜空をいろどる5分間の花火。2025年3月までに、27日ほどの打ち上げを予定し
ています。これは首都圏最大規模となります。横浜港のまわりで行われるイベントととも
に、一年を通じてまちをもっとにぎやかにし、経済を元気にしていきます。

【行う日時と場所】

5月11日(土よう)大さん橋/16日(木よう)・18日(土よう)・26日(日よう)新港ふ頭/25日(土よう)山下ふ頭
20:00～20:05(16日だけは19:00～19:05)

※6月からの予定はウェブページで見てください。

きくところ 横浜スパークリングトワイライト実行委員会運営事務局 TEL:045-663-7267 FAX:045-681-2838



かわいいことは
こちら



ほかにも、開港月間には楽しいイベントがたくさん行われます。
それぞれのイベントのかわいい情報はウェブページで見てください。



かわいいことは
こちら



海、港、緑、歴史、地域、人々など、さまざまな魅力を持つ横浜。このまちの彩りを「よこはま彩発見」として届けていきます。今回は1月の地震で大きな被害を受けた石川県能登と横浜のつながりについてです。

ウェブ版では、抽選で読者プレゼントがあります

もっと かわいい話は はこちら



の と はんとう よこはま 能登半島と横浜

よこはま と し はつてん き ねんかん しゅにんちよう さけんきゅういん よしだ りつ お 横浜都市発展記念館 主任調査研究員 吉田 律人

2024年の1月1日、能登半島の先端を震源とするマグニチュード7.6の地震が起きました。北陸地方は大きな揺れにおそれました。津波が沿岸部をおそっただけでなく、輪島市の中心部では大きな火事が起きました。さらに、土砂くずれなどで孤立する集落もありました。被害があったところでは、今でもたくさんの人たちが不自由な生活をおくっています。

横浜と能登半島は遠くはなれていますが、深いつながりがあります。たとえば、鶴見区にある曹洞宗の大本山（=宗派の寺をまとめる寺）である總持寺は、輪島市門前町に起源があります。また、横浜市内で銭湯を開いている人々のルーツも、多くが能登半島にありました。

石川県の鹿島郡や羽咋郡、七尾市の神社では、たくさんの鳥居、狛犬、灯籠に「横浜」の文字がぎざまれています。たとえば、1923年に建てられた鹿島郡中能登町の能登比咩神社の

鳥居には、「横濱市福富町一丁目五十一番地 永瀬啓太郎」と書いてあります。永瀬は銭湯で使うガラス製品をあつかう問屋で、その親戚も横浜市内で銭湯を経営していました。横浜で成功した銭湯経営者は、ふるさとへの恩返しとして積極的に寄付をしました。そして、それを見た人たちがさらに横浜へ移住するという流れができました。横浜市民の公衆衛生は能登半島から来た人たちによってささえられていたのです。

1859年に開港してから、横浜は、さまざまな国や地域からの移住者をうけ入れて、コミュニティをつくってきました。能登と横浜のつながりのことを思い出して、横浜から能登の復興をささえ、応援していきましょう。



能登比咩神社(左)と鳥居の拡大写真(右)



2019年9月撮影

きくところ 政策経営局広報課 TEL:045-671-2331 FAX:045-661-2351

広報紙閲覧サービス「カタログポケット」

18の区の「広報よこはま」がスマホで読めるようになりました

5月号から、市版とそれぞれの区版(=たとえば「旭区版」「泉区版」など)の広報よこはまを電子ブック「カタログポケット」で読むことができるようになりました。いつでもどこでも、気軽に横浜の最新情報をチェック! 気になるイベントや手続き情報もスマホで見られます。

大きな文字で読みやすい!

読みたい文字をタップすると、大きな文字で読むことができます。

気になる記事にすぐにアクセス!

二次元コードをタップするだけで、そのままウェブページにとぶことができます。

記事を切りぬぎ、SNSでシェア!

気になる記事を切りとって、LINEなどで共有もできます。

10の言語に対応、音声でも聞ける!

日本語をふくめて10言語で読むことができるほか、音声読み上げ機能があります。読み上げる速さも調節できます。

最新号のお知らせがとどく!

「広報よこはま市版」を「マイコンテンツ」に登録すると、毎月電子ブック版の発行日にプッシュ通知でお知らせがとどきます。

Catalog Pocket
カタログポケット

専用アプリでもブラウザでも読むことができます

市版の広報紙はこちらから
2024年5月号の最終ページから
各区版を読むことができます。

きくところ 政策経営局広報課 TEL:045-671-2332 FAX:045-661-2351

2024年度 横浜市のとりくみ

よこはま 横浜で、 ゆとりある子育てを！

～おやこ More Smile Package～



2024年度
予算はこちら

横浜市では、「子育てしたいまち」になれるように、2024年度も子育て支援にしっかりととりくみます。家事・育児・仕事でいそがしい子育て世帯に、もっと「ゆとり」をつくりだす新しいとりくみを始めます。



妊娠・出産のとき

POINT 赤ちゃんを産むときの費用が軽くなる！ 横浜市だけ！

出産育児一時金のほかに、横浜市から最大9万円を助成して、安心して出産できる環境をつくります。

※2024年4月1日より後に出産した人は、10月から申請することができます。
※健康保険組合から出る出産育児一時金を差し引いた金額を受けとれます。



くわしいことは
こちら

出産育児
一時金
50万円

横浜市だけの
助成金
9万円

【きくところ】子ども青少年局地域子育て支援課 TEL:045-671-4157 FAX:045-550-3946

赤ちゃん和小さい子どもの時期

POINT 子育て手続きがスマホでできる！ 日本で初めて！ [6月終わりごろに開始予定]

- 妊娠・出産～6歳までのさまざまな手続きをウェブサイトやスマホアプリで行えます。これからは、小学生より年上の子どもたちのためのいろいろな手続きもできるようにしていきます。
- スマホアプリには母子手帳の機能があります。予防接種の時期のお知らせも、個別に届きます。
- 保育園や公園など、子育てに関係がある施設の検索もできるようになります。

申請できる手続き

出産費用助成、産後母子ケア（訪問型）、小児医療費助成、児童手当・児童扶養手当、一時預かりの予約 など



【きくところ】子ども青少年局企画調整課 TEL:045-671-4281 FAX:045-663-8061

POINT 保育園に行くときの紙おむつやエプロンの準備がいらなくなる！

保護者が保育園に持っていくものをへらして、使用済み紙おむつを家に持って帰って処分する負担を軽くするために、保育園などでの紙おむつ・食食用エプロンなどの定額利用サービス（サブスク）をとりいれたり、保育園が紙おむつを処分する費用を補助します。



紙おむつ



エプロン

【きくところ】子ども青少年局保育・教育運営課 TEL:045-671-3564 FAX:045-664-5479

学校に入ってから

POINT 夏休みのお弁当づくりがいらなくなる！

夏休み中はすべての放課後キッズクラブ・放課後児童クラブで配食サービスによるお弁当を提供して、保護者の負担を軽くします。
※お弁当の料金は400円の予定です



【きくところ】子ども青少年局放課後児童育成課 TEL:045-671-4068 FAX:045-663-1926